●ご利用者様、ご家族とらいふ職員をつなぐ架け橋●

らいふ通信(施設運営版)

令和2年4月号　第31号　制作：㈱らいふ　TEL 03-5769-7268

新型コロナウイルス流行に伴い、面会等の自粛におきまして皆様のご支援・ご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

1.新型コロナウイルス感染拡大予防対策：看護師(スーパーバイザー)を配置します

新型コロナウイルス感染対策に伴い、指示事項徹底の為、看護師(スーパーバイザー)として配置します。下記詳細をご確認ください。

通知

・内容：「新型コロナウイルス感染防止策スーパーバイザー」を各施設看護職１名配置します。
・目的：新型コロナウイルス感染防止と実効性確認
・役割：新型コロナウイルス感染防止策推進役としてその実効性の確認を行うとともに、施設長及び全施設職員と協力し感染防止を徹底する。
・期間：即日～終息期まで（予定：約5ヶ月）

▶任命された看護師（一部）

▶エリア毎で会議を実施

チェック日：2020年　月　日

新型コロナウイルス感染防止策 徹底状況チェックシート

施設名：　　スーパーバイザー氏名：

スーパーバイザーの業務 ⇒ 下記項目の実効性のチェック

	担当チェック項目	役割（依頼事項）	チェック欄
1	出勤職員（厨房業者含む）の体調管理表の記載状況（含む、出勤前の検温）およびその実効性	形骸化してないか？	□形骸化していない □形骸化している
		記入漏れ等はないか？	□記入漏れはない □記入漏れがある
2	来館者の受付簿の記載状況	形骸化してないか？	□形骸化していない □形骸化している
		記入漏れ等はないか？	□記入漏れはない □記入漏れがある
3	サージカルマスク、消毒用アルコール製剤の在庫	在庫がなくなりそうになっていないか？	□在庫は十分ある □在庫がなくなりそう
4	電子体温計の動作状況	不具合はないか？	□不具合はない □不具合がある
5	出勤職員（厨房業者含む）のマスク着用・手指除菌・消毒状況（朝・昼・夕）	形骸化してないか？	□形骸化していない □形骸化している
		遵守できているか？	□遵守できている □遵守できていない
6	館内主要共有スペース（食堂・浴室・トイレ）の空気・飛沫感染リスク確認	高リスク箇所はないか？	□高リスク箇所はない □高リスク箇所がある
7	受診先等の外出先から帰設されたご入居者の除菌・殺菌の実施状況	遵守できているか？	□遵守できている □遵守できていない
8	その他　気がついた点（問題点・課題点・懸念点など）	【記入欄】	

上記項目の中で、一項目でも「赤字」の項目に☑が入った場合は、即本部長に直接報告！

●報告１）：申し送り時、参加者に上記チェック結果を報告。同時に施設長報告。（夕のみ実施。自身が公休の場合は他の看護職員へ担当業務内容を依頼）
●報告２）：感染症対策委員にチェック結果を報告
↓
●報告３）チェック項目・結果に一つでもエラーがあった場合、本部長に直接報告する。

▲スーパーバイザーが使用するチェック表

2.新型コロナウイルス感染拡大予防対策：「(仮称)社内学童」を開設しました

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、臨時休校や時差出勤・不要不急の外出を控える等の要請が立て続けに発信されていることに鑑み、現在対応中の施設・事業所運営、特に**小さいお子様をお持ちの職員への緊急措置として、「(仮称)社内学童」を開設致します。**皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご入居者様の日常の生活の継続と安心・安全を守るため、介護・看護サービス低下とならぬよう特別対応としました

「(仮称)社内学童」詳細

利用者：
・小学校1年生～3年生までの当該施設に所属する職員のお子様に限る
・預かり所の利用は「自宅で一人にさせられない」「預けられる親族や施設がない」等の出勤に支障をきたしている場合に限る
・預かるお子様はご入居者様と接することがないようにする(事故防止のため)
設備：
・使用可能時間は9:30-13:30とする
配置職員：
・開放中、見守り専任職員として選出したパワフルスタッフを1名常駐させる
詳細は、当社ホームページに掲載しております。
右記QRコードより、ご覧ください。

▲施設内掲示ポスター

新型コロナウイルスについて、らいふの対策はHPニュースに掲載しております。詳しくは下記Qコードを読み取り、ご確認下さい。

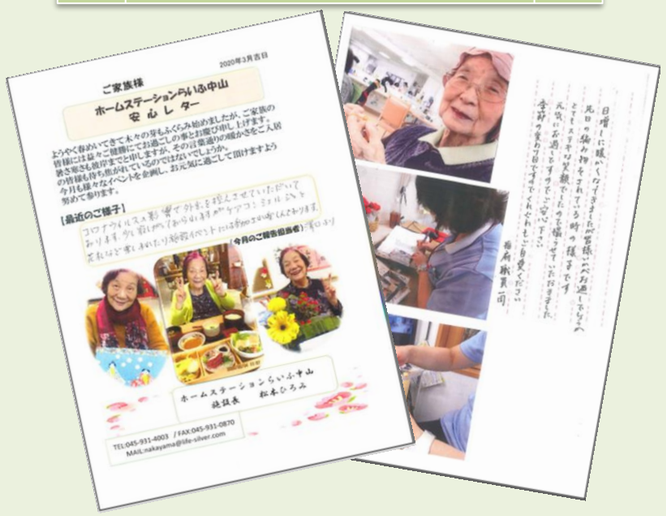
▲らいふHPニュース一覧

3.新型コロナウイルス感染拡大予防対策：ご家族様とのコミュニケーション作り

～全施設にて「安心レター」を作成しています～

現在、残念ながら当社の施設では新型コロナウイルス感染拡大予防のため、面会を制限しております。
そのような状況下で日々のご様子、元気なお姿をお伝えするため、全施設にて創意工夫の上、ご家族様に「安心レター」の作成を始めました。「安心レター」には、ご入居者様の素敵な笑顔の写真や職員からの近況報告、ご入居者様の直筆メッセージ、などが添えられてます。

「安心レター」(一部)のご紹介



「安心レター」の他にも、お電話・ブログ更新・メール等を利用してご入居者様の近況報告を行っています。各施設が創意工夫をしてご家族様とのコミュニケーション作りを行っています。

「安心レター」作成の様子

全施設の「安心レター」を当社ホームページに掲載予定です。下記URLまたは、右記QRコードよりご覧ください
https://www.life-silver.com/index.php?prev=1&d=life_effort&c=shinseikatu&p=life-letter.html

4.2020年3月1日発行「東京新聞」に、「認知症高齢者に向けた減薬の取り組み」が掲載されました

東京新聞(2020年3月１日朝刊)に、当社が進めている「減薬の取り組み」の取り組み内容と現時点での進捗・改善効果について掲載されました。是非ご覧ください！

【掲載概要】　新聞社：中日新聞社
新聞名：東京新聞
発行　：2020年3月1日(日)

2020年

高齢者の減薬 改善効果は

首都圏の老人ホームと専門家 取り組み

6種以上の服用で有害リスク

認知機能など「症状良く」

「わめき・トラブル減った」 介護現場に光

▲掲載記事

5.辻口パティシエ監修自由が丘ロール屋 ロールケーキの食べ比べを開催します！

スイーツのメッカ“自由が丘”で有名なモンサンクレールのオーナーシェフ　辻口博啓氏が、18歳の頃から夢を描いていた唯一無二スタイルのロールケーキ専門店。自由が丘ロール屋からのお取り寄せスイーツイベントを開催致します！
スフレ、スポンジ、ビスキュイなどバリエーション豊かな生地で、一つ一つ手作りしたでき立てのロールケーキがらいふ各施設にてご堪能いただけます。らいふでは今まで第3弾のスイーツイベントを実施しており、今回で第4弾となります。

らいふが自信を持ってお届けするスィーツイベント企画の第4弾！

▲辻口パティシエ（左）とらいふ取締役 小林（右）

ご提供予定のロールケーキ

和三盆ロール

いちじくときなこ

チーズクリーム

開催日時については各施設より ご連絡いたします。 お楽しみに！

6.各施設・事業所にて 「26期 定期社有車安全運転講習会」を実施しております

この度、26期1回目の「定期社有車安全運転講習会」が始まりました。らいふでは、毎年、[社有車交通事故防止・ロスプリベーションの取り組み］の一環として、「定期社有車安全運転講習会」を実施しております。優良運転者も含め、運転する全職員が定期的に経験豊富な本社専門の講師から指導・講習を受け、交通事故防止に努めています。

▲講師からの個別のアドバイスと質疑応答

▲受講者全員が運転適正テストを実施

▲当日使用資料(一部抜粋)

レジュメ

1.自動車事故を起こした場合の3つの責任
　①民事責任　②行政処分　③刑事責任

※自動車事故を起こした場合、3つの責任以外にどんな事が起きますか？
　または起きる可能性がありますか？

2.らいふ自動車事故の分析

3.自動車事故を起こさないための安全運転アドバイスDVD視聴

4.講習を受講しての感想

【東京大学 客員准教授 五十嵐先生との特別対談】

7.第1回 減薬の取り組みについて

東京大学　五十嵐先生と㈱らいふ取締役 小林

東京大学大学院 客員准教授 **五十嵐 中先生** × 株式会社らいふ 取締役 **小林　司**

当社の本社にて、東京大学 客員准教授 五十嵐先生と当社取締役小林が当社が産学協同で進めている『 薬とケアの最適化に向けた認知症入居者への減薬取り組み 』をテーマに特別対談を行いました。対談内容を2回に分けてご紹介致します。

■ 減薬の取り組みについて

小林≫ 改めて、現在、五十嵐先生方と進めている**「薬とケアの最適化に向けた認知症入居者への減薬取り組み」の意義とは何でしょうか？**

五十嵐≫ 現在，厚生労働省が策定している「高齢者の医薬品適正使用の指針」に則り，御社とその指定医療機関と連携して，医薬品の適正使用に取り組んでいるところですね。超高齢社会の突入に際し，高齢者に対する薬物療法の需要はますます高まっている一方，加齢に伴う生理的変化により薬物動態や薬物反応が一般成人と異なるため薬物血中濃度が上昇しやすく、有害事象や薬物相互作用が起こりやすいのです。
　また、入居者の多くは認知機能の低下がみられます。認知症の症状は，ご存じの通り中核症状とBPSDに大別されます。抗認知症薬は，中核症状に対する進行抑制を主な目的として処方されています。BPSDに対しては，まず適切なケアやリハビリテーション，周囲の環境調整といった非薬物療法が望ましく，それでも改善しない場合に向精神薬を低用量から使うこととされています。しかし，実際は多くの薬剤が不適切に処方されているケースが多いのが現状といえます。
　上記を踏まえ，**「安全な薬剤選択」「多剤併用の回避」「服薬頻度の低減」を大きな方針として入居者の薬剤とケアの最適化を図ることとしたわけです。これらの取り組みを継続することにより，介護サービスのより一層の品質向上を実現し，入居者に安心・安全な生活の場を提供し，QOLの維持・向上を目指しています。**

小林≫ 2018年10月に，認知症の症状悪化の予防を目的として「認知症高齢者減薬取組みプロジェクトチーム」をともに発足しました。多剤を服用している入居者の薬剤とケアの最適化を図るとともに，専用の記録にて継続的にその内容を調査することにより，入居者のQOLや認知機能，ADLがどの程度変化するのかを定量・定性両面から調査・分析し，最終的にその結果を共同研究として発表する予定ですが、**現時点でその効果は出ているのでしょうか？**

五十嵐≫ 結果については現在解析中であり、詳細な成果をここで示すことはできませんが、施設スタッフは、**薬剤調整によって起こりうる変化を事前に認識することで、医師や薬剤師に適切な情報提供を行うことが可能となり、減薬過程における入居者が大きく体調を崩したといった経験はしていません。**
　むしろ精神状態が改善した、傾眠がちだった入居者が日中元気に過ごせるようになったという感覚を得ており、これまで医師や薬剤師に任せきりであった 薬の効果や副作用について施設スタッフが関心をもつようになったことも大きな成果のひとつといえます。

小林≫ 次に、この共同研究の意義とは何でしょうか？

五十嵐≫ 高齢者における薬剤の不適切な使用や多剤併用に関して，すでにさまざまな研究が存在します。多剤併用の問題は，単に経済的な問題に留まらず，①有害事象の危険性を増大させる安全性上の問題，②相互作用などに伴う効果減弱という有効性の問題—など臨床的な有用性にも大きく影響する。不適切な薬剤の投与により本来期待されている効果が発揮できないことを考慮すれば，薬剤自体の価値も引き下げることに繋がりかねません。このような点から，**適正使用に対するニーズは極めて高く，実際に薬剤の処方数と有害事象リスクの関係を評価した研究や，種々のエビデンスをもとにした高齢者向けの薬物使用に関するガイドラインが発行されている**ことは周知の通りです。

（敬称略・一部抜粋）

五十嵐中先生　プロフィール

東京大学大学院　薬学系研究科医療政策学　客員准教授

横浜市立大学医学群　健康社会医学ユニット　准教授

【略歴】

2002年東京大学薬学部薬学科卒業。2008年東京大学大学院薬学系研究科博士後期課程修了。2008年から東京大学大学院薬学系研究科特任助教、2015年から同特任准教授を経て、2019年より現職。

弊社施設に関するご意見・ご相談・お問い合わせは　株式会社らいふ　フリーダイヤル：0120-055-218
本紙に関するご意見・お問い合せは㈱らいふ本社まで